

## Ⅱ 実践編

### 8 住宅用火災警報器

#### (1) 説明のポイント

##### 【設置場所】

設置場所は、主寝室、階段、台所で、階段は寝室がある階の階段の天井、又は天井付近の壁に設置する。

##### 【点検・交換】

- 住宅用火災警報器の寿命は約10年です。10年経ったら本体ごと交換することを伝える。
- 住宅用火災警報器の点検方法は、住宅用火災警報器のひもを引くか、ボタンを押すと流れる音声ガイダンスで、「正常です」と音声流れれば、正常に作動する状態、「電池切れです」や音声ガイダンスが流れない場合は、電池が切れている若しくは故障が疑われる状態であることを説明する。
- いざという時にしっかりと作動するように、定期的な点検を促す。



## Ⅱ 実践編

### (2) 説明要領

※ 参考例文になりますので、適宜、修正して活用してください。

#### 説明例文

みなさんこんにちは。〇〇消防署（消防出張所）の〇〇です。

今日は、住宅用火災警報器について説明します。よろしくお願いします。

みなさんは、火災が起こった時に火を消したり、避難したりすると思いますが、そのためには何が大切か分かりますか。

それは火災が起きた時にすぐに気が付くことです。すぐに気が付ければ、火は小さいうちに消すことができますし、避難も素早くできます。そのために、とても役立つのが住宅用火災警報器なんです。

みなさんは住宅用火災警報器がどんなものか知っていますか。住宅用火災警報器は、火災の発生を警報音や音声などで知らせてくれるもので、火災の早期発見と未然防止に効果的な機器です。感知器と連動した専用の機器が、光や振動で知らせてくれるものもありますので、聴覚障害をお持ちの方も安心です。感知器の種類には、火災による煙を感知するものと熱を感知するものがあります。火災による被害を減らすためにも、より早く火災を感知することができる煙式の住宅用火災警報器を設置しましょう。

設置場所は、主寝室、階段、台所です。階段は寝室がある階の階段の天井、又は天井付近の壁に設置します。台所は、熱式の警報器を設置することができます。

購入場所については、家電量販店やホームセンター等で販売しています。自分で取り付けることが困難な高齢者世帯や障害者世帯は消防職員が取付支援を行いますので、お近くの消防署にご相談ください。

次に点検方法とお手入れについてです。

住宅用火災警報器の寿命は、約10年です。もし、電池が切れていたり、故障していたりすると感知しなくなってしまいます。いざという時にしっかりと作動するように定期的に点検しましょう。点検方法はとっても簡単です。

住宅用火災警報器のひもを引くか、ボタンを押すと音声ガイダンスが流れます。「正常です」と音声の流れれば、正常に作動する状態です。逆に「電池切れです」や音声ガイダンス自体ない場合は、電池が切れている若しくは故障が疑われる状態です。10年経ったら本体ごと交換しましょう。

また、お手入れ方法ですが、布等に水又は家庭用中性洗剤を浸し、よく絞って汚れを拭き取ってください。

以上で住宅用火災警報器について説明を終わります。

火災を早期発見し、火災による被害を減らすため、住宅用火災警報器の設置・点検・交換をお願いします。今日は、ありがとうございました。

## II 実践編

### (3) 知識

#### ア 住宅用火災警報器とは

住宅用火災警報器は、火災の発生を警報音や音声などで知らせてくれるもので、火災の早期発見と未然防止に効果的な機器です。

感知器と連動した専用の機器が、光や振動で知らせてくれるものもありますので、聴覚障害をお持ちの方も安心です。

感知器の種類には、火災による煙を感知するものと熱を感知するものがあります。火災による被害を減らすためにも、より早く火災を感知することができ煙式の住宅用火災警報器を設置しましょう。

#### (ア) 種類について

住宅用火災警報器には、「煙警報器」と「熱式警報器」の2種類があります。

##### a 煙式

警報器に煙が入ると、音や音声で火災の発生を知らせます。寝室や階段室に設置します。



##### b 熱式

警報器の周囲の空気が一定の温度に達すると、音や音声で火災の発生を知らせます。煙や蒸気が滞留する恐れがある台所等に設置します。



## Ⅱ 実践編

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER

YOKOHAMA

### (1) 「単独型」と「連動型」について

住宅用火災警報器は、設置している室内だけの警報器の警報音が鳴る単独型タイプと、設置されている全ての警報器の警報音が鳴る連動型タイプの2種類があります。

連動型の警報機は火災を感知すると、まず、その住宅用火災警報器が警報音を鳴動します。その後、連動している警報機にその情報を無線で送信し、一斉鳴動させます。警報器連動型には、ワイヤレスタイプまたは配線工事が必要なタイプがあります。

※ 接点付きの住宅用火災警報器をケーブルで繋ぎ、一斉鳴動させることもできます。



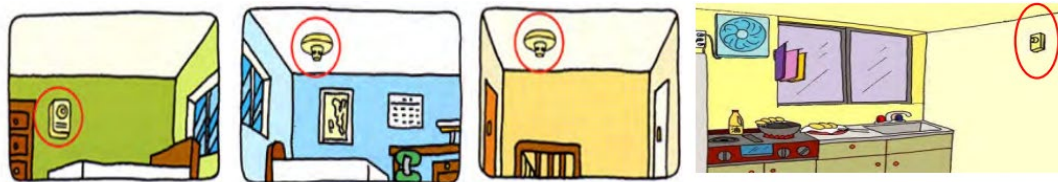
<警報音単独型>



<警報音連動型>

## II 実践編

### (ウ) 設置場所は？



主寝室

子ども部屋 ※1

階段 ※2

台所 ※3

※1 寝室がある階の階段の天井、又は天井付近の壁に設置します。

※2 台所は、熱式の警報器を設置することができます。

### (エ) どこで購入できるのか。

家電量販店、ホームセンター等で販売しています。自分で取り付けることが困難な高齢者世帯や障がい者世帯は消防職員が取付支援を行います。

### (オ) 点検方法

- ① 警報停止ボタンを押す、または、引きひもを引っ張る。
- ② 警報音（ブザーまたは音声）が鳴ります。

警報音が鳴らない場合は、電池切れや故障の可能性があります。

※ 異常がある場合は、お買い上げの販売店または、メーカーのお客様相談室等に相談してください。

※ 住宅用火災警報器は、多くが電池で動いています。いざという時、正常に機能するように、定期的に機器の点検を実施し、10年を目安に機器を交換しましょう。

ボタンを  
押す



または



ひもを引く

### (カ) お手入れ方法

布等に水または家庭用中性洗剤を浸し、よく絞って汚れを拭き取ってください。(故障の原因となりますので、警報器の内部に水が浸入しないように注意してください。)

## Ⅱ 実践編

### (※) 奏功事例

下記から参照してください。

[奏功事例一覧\(リンク\)](#)

### (ク) 住宅用火災警報器の取付け支援について

#### a 支援内容

申込者が保有する住宅用火災警報器の取付けを消防職員が行います。ご希望に応じて、その他の住宅防火のアドバイスを行います。

#### b 対象

住宅用火災警報器の取付けをすることが困難な高齢者や障がい者世帯のうち、取付け支援を希望する世帯

#### c 申込み方法

お住いの区の消防署窓口に直接お越しいただくか、電話・FAX等でお問い合わせください。

なお、代理の方の申込みも可能です。各消防署にお問合せください。(受付時間:平日8時45分~17時)

#### d 注意点

住宅用火災警報器は、ご自身で購入するなどし、**事前に準備していただく必要があります。**

※ 消防署では、住宅用火災警報器は販売しておりません。粗悪品や悪質な訪問販売にはご注意ください。

## II 実践編

### イ 参考資料

教材等	内容	備考
よこはま防災e-パーク (外部サイト)	火災、地震、風水害など、いざという時の備えを動画やミニテスト等の充実したデジタル教材で学ぶことができます。	参考リンク:よこはま防災e-パーク 3分シリーズ>火災>住宅用火災警報器
住宅用火災警報器 (横浜市ホームページ)	住宅用火災警報器について、取付け支援、チラシなどを記載しています。	参考リンク: <a href="#">住宅用火災警報器</a>
家庭防災員 (横浜市ホームページ)	家庭防災員研修テキストの防火研修に記載されています。	参考リンク: <a href="#">家庭防災員</a>